

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム 花*花

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200327		
法人名	株式会社 JAライフサポート		
事業所名	グループホーム 花*花		
所在地	〒028-2102 岩手県宮古市墓目第3地割15番1		
自己評価作成日	令和4年7月15日	評価結果市町村受理日	令和4年10月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action.kouhyou>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

花*花という名前にちなんで、花壇と畑に力を入れております。去年配置などを工夫して植えた宿根草などが、今年は綺麗に育ち花壇に早々春が来ました。ご近所の方々も、「見てくださいね、いつも綺麗に咲いているね」と眺めに来られています。ご近所の方から、「せっかく花壇が綺麗だから、施設の車を花壇の前に停めたら道路から見えなくて勿体ない」とご意見をいただき、車の停車位置を変えることがありました。興味を持って眺めていただいていること、大変嬉しく励みになっております。花の特徴や育て方を、利用者に調べていただき、花がら摘みやつるの誘引を行いました。今年の畑は草取りをしやすく、囲いを設置しました。何を植えるか皆さんに聞きながら、今年は18種類の野菜の苗を植えました。思うように外出が出来ない中、開所4周年パーティーやお花見、バーベキュー大会を開催しました。普段と違った雰囲気やメニューに喜ばれていました。施設内に訓練用の平行棒を設置し、訪問看護ステーションのリハビリ担当者に利用者それぞれの訓練メニューを作成していただき、体操以外にも歩行練習やスクワットなど下肢の筋力低下防止に力を入れております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念では、利用者、家族、スタッフが三つの軸となり、その上で事業所が一つの家族となっている。その理念は理念として掲げるだけでなく、管理者と職員がしっかり共有し、普段の業務の中に活かされている。特に、毎年度、理念に即した各自の具体的な行動目標を定め、毎月自己評価・点検を行って業務改善を図っており、年度末には管理者と1年間の振り返りを行い、次年度の目標に生かしていくなど、理念が実践につながるシステムができています。職員は、利用者の持てる力を引き出し、持続できるよう畑での野菜づくり、花の育て方、収穫した野菜を使つての調理、味付けなど、普段家で行っていた事を持続出来るよう支援に努めている。地域の方々とも、花を通して触れ合いを持ち、家族と利用者からは、安心感を持って受け止められ、信頼度は高い。訪問看護ステーションのリハビリ担当者が利用者個々のメニューを作成し、毎日の体操と合わせてできる範囲内で行い、下肢の筋力低下の防止にも力を注いでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年9月1日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を達成するための、個人の目標と取り組みを決め、毎月自己評価をし振り返っております。去年の外部評価後、新しい理念作成に取り組む予定でしたが、開所4年目で変えてしまうのはまだ早いのではないかと意見も聞かれ、作成までには至っておりません。	開所に当たり管理者と職員が協議を重ねて理念を作成し、毎年度理念に即した職員各自の具体的な行動目標をシートに定め、毎月自己評価・点検を行って業務の改善を図っている。年度末には管理者と1年間の振り返りを行い、次年度の目標に活かしていくなど、理念が全員に共有され実践に繋がられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所の方々が野菜のおすそ分けにいらしたり、畑周囲の草刈りをしてくださることもあります。皆さんで外に出て日光浴や体操をしていると声を掛けてくださることもあります。	利用者や職員が外にいと、近所の方が気軽に挨拶や声掛けをしてくださる。また、「花*花」を象徴する花壇の花を見に寄ってくれたり、事業所の畑の草刈りをしてもらったりと、コロナ禍でもいつものお付き合いができています。町内会に加入しているほか、コロナ禍で現在は難しいが事業所の清掃を通じて中学校、小学校との交流も進めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2年ぶりに新里中学校から奉仕活動に出向きたいとのお話をいただきました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度、事業所を会場に開催しております。区長、訪問看護師、行政、地域包括支援センターに参加いただきました。ヒヤリハットや事故を報告することで、認知症や介護に詳しくない区長からも「大変だね」等の理解が得られております。	2カ月に1回開催し、コロナが蔓延した際には、2回書面開催とした。会議でいただいた意見等は全て議事録に記録しており、特に訪問看護師からのアドバイスや区長からの素朴な疑問などは、参考になる内容が多く、サービスの向上に寄与している。	会議を情報発信や地域の情報を収集する場としてとらえ、学校の先生や民生委員、近隣の方など、地域の情報通の方や様々な職種の方を委員に委嘱することが望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市町村担当者も参加され、意見やアドバイスをいただいております。コロナワクチンについては接種状況などの確認の連絡などがきております。	市の担当課職員からは、運営推進会議委員として意見や助言、アドバイス等をいただいている。市主催の地域ケア会議にも参加しているほか、要介護認定申請やコロナ禍対策に関しても事業所等の状況を説明したり市から連絡をいただくなど、相互に連携が図られている。	

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム 花*花

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する指針を定め、身体拘束廃止適正化委員会を2カ月に1回開催しております。身体拘束の事例はありませんが、岩手県身体拘束実態調査結果をみながら、花*花でもありうる事例を確認しております。	身体拘束廃止の指針を作成し、2カ月毎に身体拘束廃止適正化委員会を開催し、日々の業務の中で、想定できるスピーチロック、ドラッグロック等の事例を出し合いながら防止に努めており、これまで身体拘束の事例は発生していない。転倒予防対策として、家族の同意を得て2名の方が人感センサーを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について、内部会議を行っております。突然重大な虐待が発生するのではなく、その影には不適切なケアの存在が考えられる、ということを共有しております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度をご利用されている方がおります。月に1度面会され、不安な事や聞きたいことなどを確認しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定時には説明を行い、家族や利用者等に不安が残らないように心掛けております。特に看取りの部分では、ご家族の気持ちが変わることも考えられるためタイミングをみながらしっかりと話し合いを持つようにしております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話での連絡時や面会時には、本人の様子を報告し、家族の意向等を汲み取るようにしております。広報誌「花花ごはん」をお渡しすることにより、楽しそうな顔が見れて安心します、との感想が聞かれています。	面会時や電話での連絡時(月1回は必ず連絡)に家族の意見を伺い業務に反映させている。広報誌「花花ごはん」(月1回発行)で利用者の笑顔や食事の様子を届けているが、これも家族から普段の様子を見たいという希望を受けて始めたものである。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	内部会議において、意見を言える機会を設けている。利用者対応についての意見は、ひとまずやってみよう、の流れができています。	月1回の職員会議で意見・提案の機会を設けているが、日常の話しやすい環境ができており、普段の業務の中で話されることも多い。方針として、特に新人の意見を大事にしている。利用者に合わせて、ベッドから畳の部屋に変えたり、エアコンを大型に変えたりと、職員の提案が具体化されている。職員との個人面談は年1回実施している。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 花*花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望は可能な限り受け入れております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ヒヤリハットを通しながら、職員の介護勤務実績年数に関わらず介護の基本に戻るような内容の研修をすることもあります。内部会議では、これから介護福祉士試験を受ける職員に対し、試験内容を掴んでもらうため、4問ずつ過去問を出し皆で解いています。資格取得者も、一緒に解くことにより、基礎に戻ることができています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いつも参加している地域とは別の、地域ケア個別会議からお誘いを受け参加しております。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人と家族に面会し、グループホームの環境や目的について説明しております。不安な事は気軽に聞いていただけるように、聞きやすいような雰囲気作りを心掛けております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所後慣れるまでの間、家族に電話で対応していただくこともある旨を伝えています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前より、他事業者などと連携を図り、身体状況の変化の把握に努めております。アセスメントの段階で、困りごとを抽出しております。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 花*花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その時を穏やかに楽しく過ごせるよう、季節や時間の流れを感じてもらえるような対応を心掛けております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	食欲がない利用者に対し、家族が作った食事を提供することもあります。食べ慣れている味に喜び、食欲が回復することもあります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者と友人、教え子との手紙のやり取りを行っております。花壇の花が綺麗だから教え子に見せたい、と要望があり写真を撮り手紙とともに送ったことがあります。	コロナ禍で難しい面もあるが、友人や教え子と手紙のやりとりをしている例や、病院受診の帰りに、利用者の住んでいた場所を巡ったり、いつもの理容師を呼んだり、少しでも馴染みの人や場との関係が継続するよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	すぐに職員が間に入ることは控え、利用者同士がどのように関わり合えるのかを見守ることもあります。落ち着かず歩いている利用者に対し「どうしたの？」と声を掛けたり、服の乱れを直してあげたりする様子が見られております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りをした家族や、入院の為退所された家族がお寄りになり相談に乗ることもあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の多くは自分の思いを話せる状況にあります。日常の会話の中から意向を抽出し、一人ひとりの個別ケアを重視しております。	一人一人の個別ケアを重視し、受け持ち担当制を取っており、普段の生活のちょっとした会話や、言葉で意思を伝えにくい利用者とは表情や動作から思いや意向を汲み取るようにしている。その内容は連絡ノートに記録し、職員間で共有しつつ定期的に確認して業務に生かすとともに、モニタリングにも活用している。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 花*花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らし方を、ご本人やご家族に確認し本人に合った生活スタイルを重視しています。支援する上で、他利用者と明らかに一日の流れが異なる方はいませんが、朝食の時間をずらして対応した方がおられます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気付き等を記録しております。今出来ていること以外に、本当は出来る事に注目し共有しております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所時の本人、家族からの聞き取りから始め介護計画を作成しております。受け持ち担当制にしたことで、情報収集やモニタリングが行いやすくなりました。	入居時は暫定計画(3ヵ月)を作成し、管理者、職員による3ヵ月毎のモニタリング、職員、家族、訪問看護師が入るカンファレンスを経て、長期目標は6ヵ月、短期目標は3ヵ月単位で見直されている。特に利用者のできる力を伸ばすことを基本に、計画を職員と共有して、普段の業務の中でできることを見つけて計画に反映させ、それが生活に活かされるよう対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな変化でも記録に残し、職員間で共有しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院は基本家族対応としていましたが、コロナウイルス感染症が流行してからは、家族の要望もあり施設で対応しております。看取り期間に関しては、家族が作った食事を持ってきていただいたり、柔軟に対応しております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の床屋に来ていただいております。移動図書館が月1回訪問し、お好きな本を借りています。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 花*花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	コロナウィルスの感染状況によっては、電話診療にさせていただいております。状況が変化し通院が困難な場合は、医師に相談し訪問診療をお願いしております。医師、訪問看護師、家族、施設と話し合いを重ねながら、7月に3度目の看取りを行いました。	利用者全員が、入居前の医師をかかりつけ医とし、通院介助は、家族を基本としているが、コロナ禍のため感染予防を考え今は職員が対応している。通院の道すがら景色を見たり、職員との会話も弾み、利用者の楽しみになっている。通院が難しくなって来た方には、医師と相談し、訪問診療をお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制で、訪問看護師に報告相談することができております。週2回の訪問時には、予め報告事項をまとめておき利用者が適切な看護を受けられるように対応しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は医療機関へ連絡をとり、退院の目途等の相談をしております。都度家族へも報告、相談しております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りに関しての説明をしております。都度、本人家族の気持ちは変化していくため体調不良時や、入院時などタイミングを見ながら意向の確認をしております。	入居時には、看取り指針に沿って利用者と家族に説明し、これまで3人の看取りを経験している。利用者が元気うちに今後についての希望を聞き取り、状態の変化に応じもう一度話し合い、本人や家族にとって一番良い方法を選択している。利用者全員が看取りを希望しており、献体希望の利用者もいる。職員は家族の心情に寄り添い、医師、看護師の指導の下、全員で看取りに対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応を、訪問看護師に確認しながら行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災と水害時の訓練を、年2回行っております。発電機の取り扱い方法や注意点を、消防署に指導いただいております。ひきめの森分と合わせ、4日分の食料を備蓄しております。都度、備蓄の確認(期限等)行っております。	年2回、夜間想定火災訓練と水害訓練を実施している。市のハザードマップの対象区域になっている事もあり、消防署の指導を仰ぎながら訓練を進めている。指定避難場所は100m離れた公民館で、近所の方にも避難時の協力をお願いしている。備蓄は同系列の「ひきめの森」の分を合わせ、4日分の食糧を保管している。期限の確認も行っている。	実際の災害発生時には、近所の方の協力がスムーズな避難の要ともなる。そのため、訓練のとき以外にも避難の体制について具体的に話し合うなど、近所の方の協力が確実に得られるよう一層の取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	広報誌への写真掲載も本人家族から同意を得ています。居室への入室は本人に確認してから行っています。話の内容によっては、周りに他者がいないことを確認したうえで話ししております。	ユマニチュード(ヒューマニズム)をもとに、日々の支援を考え、サービスの向上に繋げている。利用者の呼称はさん付けで統一し、入室の際にはノックと本人の確認を得てからの入室としている。トイレの声掛けも耳で「そろそろ?」と話すようにし、なれ合いにならないよう言葉遣いにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴後の着替えを職員と一緒に選んでいます。季節や気温の話をしなが、自己決定できるように工夫しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	認知症により体操、レクへの参加が難しい方は、時間をおいて個別で対応するようにしている。休みの方は自室でゆっくり休んでいただくようにし、一人の時間も大切にさせていただいております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	通院時には、着替えるかどうかお聞きし対応しております。誕生日会に参加される際には、自ら服を選び着替える方もいらっしゃいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士がメニューを考え、畑の野菜を使い3食手作りしております。ご近所さんの差し入れ等が来るときもあります。利用者手作りの漬物が好評です。皆さんで取り分けたり、食器拭きなどを行っております。	栄養士が献立をたて、畑で収穫した野菜や近所からの差し入れを利用し、職員と一緒に利用者も調理に関わり、テーブル拭きや食器拭きも行っている。時々、利用者にスーパーのチラシを見せて何がいいと聞いたりもしている。屋外でのバーベキューやキッチンカーでのラーメンも好評で、お盆と正月のお寿司やビールは好評である。	

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム 花*花

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を記録、共有しております。あまり残される方はいません。水分を摂りたがらない方がおられますが、お茶以外の好みの物を聞き出し、可能な範囲で対応しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔洗浄に、自ら席を立つ方もおられます。忘れていたり億劫になってしまう方には、こちらから声を掛け促しております。現在、義歯作成途中の方もいらっしゃいます。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄間隔等を記録、共有しております。日中はトイレで排泄出来るよう、声を掛けております。	利用者一人一人の排泄パターンをチェックし、職員で共有しながらトイレに誘導している。自力排泄を支援し、夜間のみ4名がポータブルトイレを使用している。現在1名が布パンツを使用し、他はリハビリパンツ又はパッドを使用している。ぐっすり寝ている場合は声掛けはせず、夜のパッドの大きさを変えるなど、自力排泄を基本に一人一人の状態に応じた工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の方などには、ご家族と相談し乳酸飲料(ミルミル、ヤクルト)を購入しております。個人が過度に気にしてしまうことがないように、声掛けを工夫しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声掛けで拒否があるような場合には、日を改めることがあります。通院の前日に入りたいと希望される方がいる場合は、都度対応しております。	週2回午後入浴を基本としているが、通院や本人の希望で午前時の時もある。男性職員が3名なので、異性介助に気を配り、湯量や湯温も配慮している。入浴時間は着替えを含め1時間弱。職員と1対1の会話を楽しみにしている利用者もいる。嫌がる方には気分転換を図ったり、声掛けを工夫し入浴に導いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間に合わせ照明を少しずつ暗くしたり、テレビの音量を低くしていくように対応しております。起きていたいという方には、本人にとって無理のない範囲で対応しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報がすぐに確認出来るようにしております。薬内容や服薬回数などが変更になった場合は、訪問看護師への報告、記録で情報を共有しております。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 花*花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	認知症予防にと、広告のゴミ箱を一日20個作ることを目標にしている方がおられます。一日の始まりには必ず新聞に目を通す方がおられます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、通院以外に出掛けることはほとんど出来ていませんが、感染者数が減った時を狙い以前から希望があった洋服や寝具を買いに、出掛けたことがありました。お天気の良い日には、外を散歩したり日光浴をしています。6月には外でバーベキューを行いました。	コロナ禍で以前のような外出はできないが、天気の良い日には散歩や日光浴をしたり、花壇の花植え、畑の野菜の植え付けや収穫等にも携わり、何かと外に出る機会が多い。桜の時期には宮古の「つつみ公園」や浄土ヶ浜へ行ったり、6月には外でBBQを楽しみ、8月には墓参に行けない代わりに迎え火と花火をして過ごした。秋には紅葉狩りが控えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い程度の現金を管理されている方がおられます。ヤクルトや、床屋の支払いをされています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けてほしいと希望があれば、対応しております。知り合いから荷物等が届いた場合には、こちらから声を掛け電話で話をされる方もおられます。教え子から絵手紙が届く方は、花壇の写真を添え手紙を書いております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただけるように、季節の花を飾ったり、話の中にも季節が分かるような工夫をしております。厚着傾向の方などには、外の様子を感じていただき薄着になれるよう支援しております。	共用スペースで過ごす時間が長いため、暑からず寒からずと温度調整に配慮している。椅子、テーブルの配置も工夫を重ねており、9名が座れる長椅子もある。利用者全員が花好きのため、季節感のある花を飾ったり、利用者が職員とつくった貼り絵なども飾っている。就寝の時間(8時頃)が近くなると、徐々に照明やテレビの音量を落として自然な形で居室に誘導している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれお好きな場所で過ごしていただいております。他者と長時間一緒に過ごし、疲れが見られるような時はこちらから声を掛けております。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 花*花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	転落の危険がある方はご家族と相談の上、畳の 部屋に変えております。自宅でも畳の部屋で寝 ていたとのことで、安心して休まれているよう です。	介護ベット(畳は2部屋)、整理タンスが備え付け と なっている。夏はホールと廊下に設置してあるエ アコンで、冬は床暖を使用し居室の温度を管理し ている。テレビ、姿見など使い慣れた物を持ち込 み、家族写真や孫の写真、職員からのプレゼント の寄せ書きを貼っている。モップ掛けのできる方 は自室のモップ掛けをし、居心地よく過ごせるよ うにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	職員から、雨が降ってるかなー？降ってきたら教 えてちょうだい、洗濯物は乾いたかな？触ってみ てちょうだい等とあえて利用者に相談しながら、 返事を待っております。		